

## 変形性膝関節症

医療法人社団くわのみ会

### 桑園整形外科

札幌市中央区北8条西16丁目 ☎011-633-3636

http://www.dr-azuma.net

# 東裕隆

理事長  
院長

## 全国トップレベルの執刀技術 と保存療法で膝痛を改善



優れた執刀技術を持つ院長の患者に多く訪れる



あずまひろたか／1992年北大医学部卒業後、市立札幌病院救急部勤務。93年北大医学部整形外科入局。2000年カルガリー大学（カナダ）留学。03年市立札幌病院整形外科副院長を経て、07年開院。11年医療法人社団くわのみ会を設立し理事長、院長に就任。日本整形外科学会認定整形外科専門医。

「治療において患者への負担をいかに軽減するか」は、治療率の向上に加え、昨今の医療で追求されるキーワードのひとつだ。外科的治療において、その代表例とされるのが「MIS」。

傷口を最小限にとどめる執刀技術で、最小侵襲手術や小皮切（せうひきり）とも言われる。

このMISによる人工膝関節置換術を、変形性膝関節症の治療にいち早く取り入れ、抜群の実績を挙げているのが桑園整形外科の東裕隆理事長だ。

変形性膝関節症は、膝のクッションである軟骨がすり減り、MISによる傷口は、5〜6センチ程と小さくかつさほど目立たない

関節に炎症が起きたり変形するなどにより、慢性的な痛みが生じる疾患だ。中高年が抱える膝痛の代表的な症状で、加齢や肥満などが要因。一度すり減った軟骨は、もとの形に修復されることはないが、人工膝関節置換術により痛みを除去し、膝が曲がりきらない状態を改善する。

「当院の人工膝関節置換術は、MISで実施するためより小さな切開傷で人工関節を設置することが可能です。従来の手術では、患部を15〜30センチ程開き、さらに筋肉組織も大きく切開していたが、MISではその約3分

用性を語る。

東理事長は、これまで膝に関する手術を2000例以上実施もつとも得意とする人工膝関節置換術は、2010年度に149件、11年度は179件。年を追うごとに増え続け、多くの患者が東理事長の元を訪れている。「患者への負担を考えれば手術は最後の手段です。基本方針は極力手術をしない保存療法。筋肉訓練や消炎鎮痛剤の使用、ヒアルロン酸注射、日常動作の指導などを優先的に実施します。痛みが改善しない場合にのみ、手術を提案しています」

の1の5〜9センチ（平均7・5センチ）しか切開せず、もちろん筋肉を傷つけることもありません。また、これまでは術後の回復期間に1〜2カ月の入院が必要でしたが、わずか2〜3週間に短縮され、患者への負担が軽減。例外はありますが、MISは95%以上の患者さんに対応できます」とその有